

三鷹まちづくり総合研究所「第4次基本計画と市民参加のあり方に関する研究会」

(第4回議事録要旨)

日時 平成21年10月28日(水)午後7時～9時

会場 三鷹ネットワーク大学

出席者 中村陽一(座長)、江上渉(座長代行)、濱野周泰、木村忠正、河村孝、河野康之、竹内富士夫

ゲストスピーカー 「まちディスミタか」(埴村貴志氏、吉田純夫氏、村井 亨氏)

事務局側 企画経営室、三鷹ネットワーク大学

〈議事要旨〉

(注) この議事録は抄録であり、すべての発言が掲載されているものではありません。

1. 第4次基本計画策定等における市民参加のあり方について

出席者自己紹介、事務局から資料説明(略)

○木村研究員

まちづくりディスカッション直後に「参加してよかった」や「続けた方がいい」との意見が多いことは非常に大きな成果だ。数年後に参加者のフォローアップを検討した経緯はあるか。

○まちディスミタか

実行委員会でも議論になったが、現状ではまだ実現できていない。

○河村研究員

外環など、これまでのまちづくりディスカッションで報告書をまとめた際、もう一度開催するか、解散するかの賛否をとったが、大多数が解散希望だった。自分たちの意見がどのように反映されたかが分かれば、あとはしっかり国、都にやってもらいたいとの意向だったと思う。

○木村研究員

市民が地域に参加する仕組みとして、よく考えられているし、今後広がっていくことが望ましい。参加でモチベーションが高まり、地域への関心を広げていくきっかけになる。

○濱野研究員

グループ討議の発表の際に投票するというが、それは意見の傾向を出すためなのか、あるいは参加者のベクトルを整える意味で行っているのか。投票の意義について聞きたい。

○まちディスミタか

限られた時間の中で全体の傾向を確認するという位置付けでやっている。

○濱野研究員

三鷹市の年齢構成をベースに無作為抽出で参加依頼を出しても、実際の参加者は高齢者の比率が高くなっているようだ。若い人の意見や少数意見はどのように拾っているのか。

○まちディスミタか

各グループのまとめの際はワークシートを使って、少数意見であっても光るものについては、残したい意見として必ず記入してもらうようにしている。

○河村研究員

参加者は代表権を持っているわけではない。出された意見は最終的に報告書に全部記載している。一般の公募型の市民会議だと7割以上が50代以上になることもあるが、この方式では各年代のバランスはとれている。

○江上座長代行

「代表制」ということを余り言わない方がいい。無作為抽出は今まで参加の機会がなかった人に参加の機会を持ってもらうため。そこを強調する方が説得力がある。

○中村座長

参加の機会を開いていくことは、まちづくりディスカッションの大きな意味として評価できるが、積極的に市民参加を実践し、市政や地域社会に意見を言ってくる人たちの意見も必要である。私は両方の視点からの意見が必要と考える。

○河村研究員

これはアンケート調査プラス市民会議のようなもので、その両方のよさがある。「代表制」と言うかどうかは別に質的にはアンケートに近いものが出てくる。問題は関係団体やステークホルダー（利害関係者）の問題を、これと一緒にやるのか、別々にやるのかの判断だ。

○まちディスミタか

他市ではステークホルダーと無作為抽出の会議を同時にやって、それを比較検討した自治体もある。傾向はほぼ同じだが、テーマによって違ってくる場合もある。ステークホルダーの問題は非常に重要な要素であり、どうバランスをとるかが課題だ。

○企画経営室

これまでのまちづくりディスカッションでは、同じ課題を検討する他の市民会議や審議会との連携などは図られていなかった。次は、まちづくりディスカッションの情報提供のコマで、例えばテーマに関係する市民会議・審議会の座長などが、これまでの審議会等の検討を踏まえて、テーマに関する市の現状や課題などについて情報提供を行ったり、また、まちづくりディスカッションで出された提言を市民会議・審議会にも送って検討に反映させるなど、他のステークホルダー会議などとの連携を図る取り組みをしたいと考えている

○中村座長

具体的な争点があって意見の違いや対立があるテーマの場合と、ざっくりとまちづくりみたいなことでやる場合では性格が違う。さまざまな手法や意見、活動がネットワーク型に結び付くことで、多様な意見が集約され、客観性も高まっていくことになる。

○木村研究員

基本計画の策定でのまちづくりディスカッションは作ったらおしまいではなくて、絶えず市民がそういうことに関心を持つためのツールである。市民意向の反映という側面と同時に、市民力を高めるためのツールだという意識を持って臨むとよい。

○まちデイスミタか

合わせて、三鷹市のまちづくりディスカッションは、第 1 回目から市民による実行委員会によって進められている。これからも引き続き、まちづくりディスカッションの運営や提言の取りまとめは、行政主導ではなく中立の立場で公平に進めることが必要である。

○河野研究員

基本計画を作るとなると網羅的な計画なので、テーマの選び方が非常に重要だ。様々な議論をしてもらいたいが、果たしてどのくらいのテーマ数の設定が妥当なのか。

○河村研究員

8つの分野の中で更に何を絞り込むかだが、教育ひとつをとってみても分野は非常に大きい。テーマを数多くすると、総花的になる問題もある。

○中村座長

数は余り多くない方がいい。選択の仕方が難しい。

○企画経営室

これまでもテーマの設定は実行委員会の中で議論してきたが、テーマ数が多くなるほど、深掘りができなかつたり、参加者全体での意見交換ができなかつたりというデメリットがある。

○中村座長

今回は、基本計画に絡むので、数を絞る理由を明確に示す必要がある。

○企画経営室

来年度、15歳以上の市民を対象とした市民意向調査をやる。過去2回と同様のアンケート調査であるが、基本計画を構成する各施策ごとに、市の取組みへの重要度と満足度を聴き、コメントを記入してもらう形式だ。その結果を踏まえ23年度のテーマの選定に活かしていきたい。

○木村研究員

まちづくりディスカッションを実施する側がどういう意見を聞きたいのかという問題意識を明確に持って取り組みを行うとともに、出された意見への対応を整理して、明らかにしてほしい。

○企画経営室

まちづくりディスカッションで出された意見や提案について、市の方では取組み対応表を作り、具体的に何をどういう形で反映をさせたかを示していきたい。